

2003 年度 委員会活動成果報告

(2004 年 3 月 15 日作成)

委員会名	地盤震動小委員会	主 査 名：川瀬 博
所属本委員会 (所属運営委員会)	構造委員会 (振動運営委員会)	委員長名：西川孝夫 主 査 名：篠崎祐三
設 置 期 間	2001 年 4 月 ~ 2005 年 3 月	
設 置 目 的 各年度活動計画	地盤震動に関する研究上の諸問題、研究状況、動向を把握し、シンポジウムを開催し、地盤震動研究の方向付けを行う。また活動 30 周年の記念出版物を刊行する。各年度の活動としては、毎年秋に地盤震動シンポジウムを開催するとともに、大会開催地の地盤震動研究に関して情報交換する地域交流会を開催する。	
委員構成 (委員名(所属))	主査：川瀬 博(九州大学) 幹事：小林喜久二(竹中工務店)・山中浩明(東工大) 委員：岩田知孝(京大防災研)・釜江克宏(京大原子炉実験所)・清野純史(京大)・小山 信(建研)・高井伸雄(北海道)・青井 真(防災科研)・源栄正人(東北大)・森伸一郎(愛媛大)・梅村 恒(名工大)・境 有紀(筑波大学)・芝 良昭(電中研)	
設置 WG (WG 名：目的)	シンポジウム企画WG ：地盤震動シンポジウムの企画・立案	
2003 年度予算	550,000 円	

項 目	自己評価
委員会活動状況 (開催日・参加人数)	2003 年 6 月 3 日第一回小委員会+企画 WG・参加 12 名 10 月 15 日第二回小委員会+企画 WG・参加 15 名 11 月 5 日地盤震動シンポジウム・参加 187 名 2004 年 2 月 20 日第三回小委員会+企画 WG・参加 10 名
得られた成果	<p>(成果の具体的内容、成果の学術的・技術的・社会的価値、ホームページ等での公開の有無)</p> <p>今年度は第 31 回地盤震動シンポジウムを「震源断層を考慮した設計用地震動評価：地域波策定の現状と将来展望 - 地盤震動研究を耐震設計に如何に活かすか(その 2) - 」と題して 11 月 5 日に開催した。5 名の招待講演者と 2 名の特別講演者をお招きしてシナリオ地震に基づく地域波の策定、及びそれを実務に活用するための手続きと問題点、将来への展望について討論した。参加者は約 190 名であった。また 30 周年記念出版物「地盤震動 - 現象と理論 - 」の第一次原稿を脱稿し、振動運営委員会・構造委員会へ査読をお願いした。地域交流会では大会前夜にできたばかりの名古屋大学の環境学研究科の建物で「東海地区における地震防災研究と防災対策の現状」と題して 60 名以上の参加を得て実施された。名大の平原和朗教授をはじめとするアカデミーの専門家と愛知県防災局の山口さんをはじめとする地域の防災力向上に尽力されている方々の講演があり、大変有意義であった。</p> <p>委員会 HP アドレス：http://news-sv.aij.or.jp/kouzou/s4/index.htm</p>
目標の達成度	<p>(当初の活動計画と得られた成果との関係)</p> <p>当初の計画通り、11 月 5 日に地盤震動シンポジウムを開催し、多数の参加者を得て活発な議論がなされ、今後の委員会活動に生かせる知見を得た。資料集も公表であった。地域交流会では名大福和先生をはじめとする地元の研究者のご尽力により極めて内容の濃い発表がなされ、その緻密な準備状況に参加者一同はいたく感心させられた。刊行物に関しては振動運営委員会の査読が終了し、その修正版を作成中であるが、当初スケジュールより遅れているので今後速やかに進めていく必要がある。</p>
その他評価すべき事項	